

令和 7 年度

全国学力・学習状況調査の結果について

調査日：令和 7 年 4 月 17 日（木）

調査学年：小学校 6 年（国語・算数・理科）

中学校 3 年（国語・数学・理科）

令和 7 年 9 月 竹田市教育委員会

全国学力・学習状況調査

R 7年4月		国 語			算 数			理 科									3教科
全国調査小6		知技	思判表	主体的	知技	思判表	主体的	知技	思判表	主体的							
正答率	竹田市	67.0			55.0			60.0									182.0
		72.5	65.0	-	62.5	44.3	-	60.2	59.8	-							
	全国	66.8			58.0			57.1									181.9
		64.7	63.8	-	65.5	48.3	-	55.3	58.7	-							
	全国平均との差	0.2			-3.0			2.9									0.1
令和6年度		-1.7			-0.4												-2.1
昨年12月の同一集団		1.7			-0.3			-2.3									-0.9

全国学力・学習状況調査

※（理科）選択問題含めた問題の正答率の平均。全国値は全問題の正答率の平均値のため、今年度は参考値

R 7年4月		国 語			数 学			理 科									3教科
全国調査中3		知技	思判表	主体的	知技	思判表	主体的	知技	思判表	主体的							
正答率	竹田市	56.0			46.0			49.9									102.0
		48.7	56.8	-	52.2	48.4	-										
	全国	54.3			48.3			51.5									102.6
		48.1	55.3	-	54.0	52.0	-										
		全国平均との差		1.7			-2.3			-1.6							
令和6年度		-1.1			-4.5												-5.6
昨年12月の同一集団		2.3			-0.5			-3.8									-2.0

結果の概要（正答率の比較）

正答率	全体	観点別			領域別						回答形式	
		知識 技能	思判表	態度	言葉特徴 や使い方	情報の 扱い方	我が国の 言語文化	話す 聞く	書く	読む	記述式	
R7	竹田市	67.0	72.5	65.0	—	72.9	64.2	79.8	67.0	69.7	60.1	66.1
	全国	66.8	74.5	63.8	—	76.9	63.1	81.2	66.3	69.5	57.5	58.8
	差	0.2	-2.0	1.2		-4.0	1.1	-1.4	0.7	0.2	2.6	7.3
R6	竹田市	66.0	66.9	64.7	—	59.9	84.0	78.2	56.0	68.1	71.1	69.3
	全国	67.7	69.8	66.0	—	64.4	86.9	74.6	59.8	68.4	70.7	64.6
	差	-1.7	-2.9	-1.3		-4.5	-2.9	3.6	-3.8	-0.3	0.4	4.7
R5	竹田市	69.0	69.0	68.8	—	72.5	60.1	—	79.2	29.8	71.5	53.2
	全国	67.2	68.9	65.5	—	71.2	63.4	—	72.6	26.7	71.2	51.1
	差	1.8	0.1	3.3		1.3	-3.3		6.6	3.1	0.3	2.1
R4	竹田市	64.0	71.7	58.8	—	69.2		83.8	63.1	51.5	60.4	49.7
	全国	65.6	70.5	62.0	—	69.0		77.9	66.2	48.5	66.6	51.3
	差	-1.6	1.2	-3.2		0.2	0.0	5.9	-3.1	3.0	-6.2	-1.6

つまづきが見られた問題

		正答率		
		市	全国	差
3三（1）	【話し合いの様子】田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する	35.8	40.8	-5.0
1一	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する	50.5	53.3	-2.8

課題

○知識及び技能では言葉の使い方に関する事項において県の正答率を約10%も下回っており、全国と比べても下回っている。

○評価の観点では知識・技能において県の正答率を6%、全国でも若干下回っている。

○問題形式においては、選択式、記述式では上回っているが、短答式において県・全国ともに下回っている。

○特に正答率の低かったのは「目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかを見る」という問題である。

授業で気をつけること

○言葉の使い方に関する事項においては、教科書の言語に関する事項の単元の学習内容を忘れている可能性があるため、定期的に宿題等で振り返りをする必要がある。長期記憶が苦手な子に対して、繰り返し練習する。また、言語に関する用語などは教室掲示を行い、子どもたちの目に触れるように工夫する。

○知識・技能の観点と短答式において下回っていることから考えると、問題を読み取る際に、必要な部分を見落としている可能性が考えられる。問題に線を引かせ、確実に正答できるように問題に取り組ませる。

○単元において「説明や方向の文章を書く」というものがある。その際に、自分が参考にした図や表のどこに目を付け根拠にしたのか、その資料から伝えたいことはなにか、という視点を常に持ち、授業展開をしていく必要がある。また、説明文の単元においても、資料の活用がある。事実と考えを明確にし、資料にもとづいて筆者の論の進め方を吟味することも効果的であると考ええる。

■ 結果の概要（正答率の比較）

正答率		正答率	観点別			領域別					回答形式
		全体	知識 技能	思判表	態度	数と 計算	図形	測定	変化と 関係	テー タの活用	記述式
R7	竹田市	55.0	62.5	44.3	－	60.1	52.3	51.4	51.1	60.0	33.5
	全国	58.0	65.5	48.3	－	62.3	56.2	54.8	57.5	62.6	34.9
	差	-3.0	-3.0	-4.0		-2.2	-3.9	-3.4	-6.4	-2.6	-1.4
R6	竹田市	60.0	69.1	48.7	－	63.0	62.6		46.5	61.1	46.6
	全国	63.4	72.8	51.4	－	66.0	66.3		51.7	61.8	51.0
	差	-3.4	-3.7	-2.7		-3.0	-3.7		-5.2	-0.7	-4.4
R5	竹田市	59.0	62.7	53.4	－	61.4	45.0	－	68.0	63.5	43.8
	全国	62.5	67.2	58.5	－	67.3	48.2	－	70.9	65.5	47.3
	差	-3.5	-4.5	-5.1		-5.9	-3.2		-2.9	-2.0	-3.5
R4	竹田市	61.0	67.4	53.8	－	69.5	60.8		48.3	66.7	56.5
	全国	63.2	68.2	56.7	－	69.8	64.0		51.3	68.7	60.2
	差	-2.2	-0.8	-2.9		-0.3	-3.2	0.0	-3.0	-2.0	-3.7

■ つまづきが見られた問題

		正答率		
		市	全国	差
2（2）	方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ	32.1	50.2	-18.1
4（3）	はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む	53.2	60.9	-7.7
4（4）	10%増量した詰め替え用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ	28.4	40.9	-12.5

■ 課題

- ・ 全体的に全国平均より低い。二山型分布になっており、正答数3割以下の児童が約26%存在する。
- ・ 図形の定義や性質の理解が不十分であるため、上底が下底より長い直角台形を台形と捉えることができなかった。
- ・ はかりの1目盛りが何gになるのか捉えることができなかった。また、「10%増量」の意味を解釈すること、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になるか求める問題の意図を読み取ることが不十分であった。

■ 授業で気をつけること

- ・ 図形では定義や性質を押さえるとともに、さまざまな形を多方向から捉えたり、作図したりする活動を取り入れるようにする。測量は実際の経験を重視するとともに、数直線を扱う授業でも目盛りの読み方を意識して扱う。
- ・ 問題から読み取ったことを図や絵、数直線等で表し、何を求めたいのか明確に捉えさせるようにする。また、それらを用いて、自分の考えを自分のことばで過不足がないように注意して説明する時間を設定する。
- ・ 単元ごとに知識・技能を確認する時間を設け、計算力や数量関係等の定着を図る。

■ 結果の概要（正答率の比較）

正答率	全体	知識技能			領域別						回答形式	
		知技	思判表	主体的	言葉特徴 や使い方	情報の 扱い方	我が国の 言語文化	話す 聞く	書く	読む	記述式	
R7	竹田市	56.0	48.7	56.8	-	48.7			57.5	53.4	61.2	28.7
	全国	54.3	48.1	55.3		48.1			53.2	52.8	62.3	25.3
	差	1.7	0.6	1.5		0.6	0.0	0.0	4.3	0.6	-1.1	3.4
R6	竹田市	57.0	59.7	54.7		57.4	54.8	76.5	58.6	65.2	46.5	45.8
	全国	58.1	62.0	55.4		59.2	59.6	75.6	58.8	65.3	47.9	45.5
	差	-1.1	-2.3	-0.7		-1.8	-4.8	0.9	-0.2	-0.1	-1.4	0.3
R5	竹田市	68.0	68.7	67.8	-	59.7	64.7	77.3	83.2	60.9	59.7	68.1
	全国	69.8	69.4	69.7	-	67.5	63.4	74.7	82.2	63.2	63.7	68.0
	差	-1.8	-0.7	-1.9		-7.8	1.3	2.6	1.0	-2.3	-4.0	0.1
R4	竹田市	70.0	69.3	61.9		72.3	39.0	73.5	66.2	39.0	66.9	55.1
	全国	69.0	69.0	62.3		72.2	46.5	70.2	63.9	46.5	67.9	57.4
	差	1.0	0.3	-0.4	0.0	0.1	-7.5	3.3	2.3	-7.5	-1.0	-2.3

■ つまづきが見られた問題		正答率		
		市	全国	差
1三	ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する。	56.2	63.3	-7.1
4二	手紙の下書きを見直し、修正した方が良い部分を見つけ修正し、修正した方が良いと考えた理由を書く。	24.1	30.1	-6.0
3一	物語の最初に問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものを適切なものとして選択する。	75.0	80.0	-5.0

- 課題

 - ▲書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えること。
 - ▲読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。
 - ▲表現の効果について、根拠を明確にして考えること。

- 授業で気をつけること

 - 「書くこと」について
 - ・目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えさせる経験を重ねる。
 - ・表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど工夫させる。
 - ・目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えさせる。
 - 「読むこと」について
 - ・文章を批判的に読ませ、文章に表れているものの見方や考え方について考えさせる。
 - ・文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価させる。
 - ・実用的な文章を読み、実生活への生かし方を考える活動を仕組む。

■ 結果の概要（正答率の比較）

正答率		正答率	観点別				領域別				回答形式
		全体	知技	思判表	主体的	数と式	図形	関数	データの活用	記述式	
R7	竹田市	46.0	52.2	36.2	－	39.3	42.6	49.3	57.4	37.9	
	全国	48.3	54.4	39.1	－	43.5	46.5	48.2	58.6	39.6	
	差	-2.3	-2.2	-2.9		-4.2	-3.9	1.1	-1.2	-1.7	
R6	竹田市	48.0	59.7	23.8	－	47.0	35.1	57.4	51.5	23.8	
	全国	52.5	63.1	29.3	－	51.1	40.3	60.7	55.5	29.3	
	差	-4.5	-3.4	-5.5		-4.1	-5.2	-3.3	-4.0	-5.5	
R5	竹田市	45.0	50.0	34.6	－	55.1	24.9	49.4	41.7	34.6	
	全国	51.0	55.7	41.6	－	63.0	33.2	51.2	48.5	41.6	
	差	-6.0	-5.7	-7.0		-7.9	-8.3	-1.8	-6.8	-7.0	
R4	竹田市	53.0				61.3	43.4	41.9	61.5	37.9	
	全国	51.4				57.4	43.6	43.6	57.1	36.2	
	差	1.6	0.0	0.0	0.0	3.9	-0.2	-1.7	4.4	1.7	

■ つまづきが見られた問題

		正答率		
		市	全国	差
2	果汁40%の飲み物a mLに含まれる果汁の量を、aを用いた式で表す	42.6	51.9	-9.3
9(2)	平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上にBE＝DFとなる点E、Fを取っても、四角形AECFは平行四辺形となることの証明を完成する	27.8	36.3	-8.5
6(2)	3nと3n+3の和を2(3n+1)+1と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する	17.4	25.7	-8.3

■ 課題

- 生徒の実態と正答率とを照らし合わせたとき、生徒の実力が十分発揮できていないと感じる。問題文を読み取らせることであったり、解答の記述の仕方であったりと、根本的な部分の指導がまだ十分でないと思える。
- 文字を使った証明や図形の証明など、論述に関する分野が弱い。受験や進学に関して顕著に表れない分野でも継続的・段階的な指導を続けていかなければならない。特に証明においては完成文をつくるテクニックに偏重せず、そこに至るまでの思考や過程を重視すべきである。
- 子どもたちの「わかりたい」という前向きな姿勢を尊重し、個に応じた指導を丁寧にしながら、少しずつ繰り返し知識や技能を積み重ねていく必要がある。

■ 授業で気をつけること

- 根拠を基にした発言や教え合いをする機会を多く取り入れ、アウトプットをたくさんすることで知識・技術の定着をはかる。
- 日々の課題に丁寧に取り組みせ、添削指導等をする中で、個に応じた指導をしていく。また、課題の内容についても、現在学習している内容や既習事項をバランスよく出題するよう心掛ける。特に図形に関する問題に重点を置く。
- 2年次、1年次の各単元での課題解決学習のときに全国学力調査の過去問を適切に取り入れ、思考や表現の鍛錬を積んでいく。

学力向上 今後の取組

令和7年9月 竹田市教育委員会

1. 組織的な取組の徹底と強化

- (1) 学力向上プランの徹底と検証
重点取組・取組指標・検証指標の具体化と統一した取組の徹底
- (2) 教科部会の教科
中学校教科部会に焦点化した取組と定期的な検証・改善
- (3) たけたん小(中)テストの継続

2. 授業改善および授業力向上

- (1) つけたい力の明確化
各種調査問題の分析、単元構想の作成
- (2) 授業を見合う時間の創出
交流授業の推進(対面・遠隔)
- (3) 竹田市人材育成研修
リーダーの育成およびリーダーの活用



【具体的な内容】



- (竹田市) 竹田市学力向上プランの徹底および検証・改善(学力向上推進委員会)、各教科部会の支援
- (学 校) 各種調査から明らかになった課題解決に向けて、自校の学力向上プランを見直し、取組の徹底を全教職員で確認
- (部 会) 各種調査から明らか位になった課題解決に向けて、焦点化した取組を徹底して取り組むことを確認

- (竹田市) 授業改善に向けた研修、ICT活用等との交流
授業の支援、授業参観、好事例の紹介
- (学 校) 単元を通して付けたい力の明確化、授業評価、交流授業の推進・実施、管理職による授業参観の勧め
- (部 会) 授業参観・交流授業の実施(授業づくりや指導案検討、T-T)

■結果の概要（正答率の比較）

正答率	全体	観点別			領域別			
		知技	思判表	主体的	エネルギー	粒子	生命	地球
R7	竹田市	2.8						
	全国	2.9						
	差	-0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

共通問題のみの結果です。

R6	竹田市							
	全国							
	差	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

実施なし

R5	竹田市							
	全国							
	差	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

実施なし

R4	竹田市							
	全国							
	差	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

実施なし

■ つまづきが見られた問題

		正答率		
		市	全国	差
1(1)	電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や早く水が温まる装置を選択する。	34.2	51.9	-17.7
1(5)	塩素の元素記号を記述する。	30.7	44.9	-14.2
				0

■ 課題

○回路全体の抵抗を求める問題では、オームの法則を使って数値を算出する練習はしているものの、オームの法則を使わずに直列回路と並列回路では、どちらが全体の抵抗が大きくなるかをわかっていない生徒が多い。また、熱量についても、公式を使わずにどちらが温度が温まりやすいかを、練習問題などの経験を通して理解できていない生徒が多い。

○塩素の元素記号については、覚えているかどうかなので、練習不足である。3年生のイオンで塩素は頻繁に出て来るので、そこで書ける生徒が増える。

○昨年度の大分県学力定着状況調査では全国比-0.6、今回-0.1であったので、全体として大きな変化はないと判断する。（今回、問題の質が違うのと問題数が少ないため一概に比較はできないが…）

■ 授業で気をつけること

○公式を覚えて数値をあてはめるだけの練習にならないよう、公式の意味や電流・熱量の概念を理解させることが大切である。

○小テストや定期テストで、繰り返し同様の問題を出題し、苦手部分の学習内容の定着を図る。

○自分の考えを述べる際には、そのように考える理由や根拠を示して述べさせる。また、他者と意見交流する場面も設け、質問したり疑問点を出し合ったりし、自分とは異なる考えにふれることで考え広げ、それらをもとに論理的に発言したり、表現したりする力を伸ばす。

令和7年度 学力調査結果に基づく成果・課題と今後の取組（各校分析まとめ）

令和7年度に実施した全国・県・市の学力調査の結果を分析したところ、竹田市内の小・中学校においては、おおむね「知識・技能」の観点で全国平均を上回る学校が多く見られた。とりわけ、計算力や語彙力、理科の基本的知識の定着などについては、日々の授業と家庭学習を通じた取組の成果が確認できた。

一方で、「思考力・判断力・表現力」を問う記述式や応用的な出題においては、学年や教科を問わず共通の課題が顕在化している。理由や根拠を明示して答える力、自分の考えを構造的に表現する力の育成が、今後の重点的な取組の方向となる。

国語においては、文章読解や感想文などで一定の成果があるものの、漢字や語彙、文法といった基礎事項の定着が不十分である。話す・聞く活動や記述においても、相手意識や表現の工夫、根拠に基づいた記述に課題が見られる。

算数・数学では、基礎的な計算力は安定しているが、図形、関数、データの活用、式の意味理解などに弱さが残る。特に、数学的思考を言語化する力や、理由を説明する記述問題での正答率が低く、指導の工夫が求められる。

理科については、多くの学校で全国・県平均を上回る結果となっており、基本的な知識や観察・実験への関心の高さがうかがえる。ただし、単元によっては理解の浅さや誤概念が見られ、特に記述問題や「予想→結果→考察」の一連の流れに沿った表現活動に課題が残る。

社会では、歴史分野を中心に安定した成果がある一方で、地理や政治分野での理解の浅さが目立つ。資料を活用した読み取りや記述力の面では、定着にばらつきがあり、学習活動の設計や支援の工夫が必要である。

英語については、「読むこと」「書くこと」の定着が進んでいる一方で、「聞くこと（リスニング）」への課題が共通して見られる。語彙や文法を活用して場面に応じた英文を構成する力も十分とは言えず、指導の重点化が必要である。

以上の結果を踏まえ、今後の取組の方向として

- 基礎学力の徹底とともに、すべての教科で「自分の考えを表現する力」の育成を図ること。
- 対話的な学びを通じて、考えを可視化し、表現に結びつける授業づくりを日常化すること。
- 苦手単元に対する補充指導とともに、個別最適な学びや ICT 活用の工夫を重ねることである。

今後も、各校における学力の実態把握と分析、指導の改善サイクルの確立を通じて、竹田市全体としての学力向上を図っていく。

令和7年度 学校質問紙調査に基づく竹田市全体の考察（小・中学校）

◎全国平均との差（肯定回答率）

【小学校】

強み（全国平均との差が大きい項目）		課題（全国平均との差が小さい）	
調査対象学年の児童生徒は、授業中の私話が少なく、落ち着いていると思いますか	14.1	調査対象学年の児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	-30.4
調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか（週3回以上）	13.7	教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をどの程度活用していますか	-28.0
コミュニティ・スクール等の仕組みを活用して、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映していますか	13.6	前年度までに、近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか	-25.3
令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）	11.0	調査対象学年の児童生徒は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか	-24.1
前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか（月に数回以上）	10.9	児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（3）特別な支援を要する児童生徒に対する学習活動等の支援（週3回以上）	-21.5

【中学校】

強み（全国平均との差が大きい項目）		課題（全国平均との差が小さい）	
調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか（週3回以上）	60.7	児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（1）不登校児童生徒に対する学習活動等の支援（授業配信を含む）（週3回以上）	-39.3
コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、教員の業務負担軽減に効果がありましたか	50.2	調査対象学年の児童生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか（週3回以上）	-21.2
教職員と調査対象学年の児童生徒がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか（週3回以上）	44.1	調査対象学年の児童生徒のうち、就学援助を受けている児童生徒の割合（2.5%未満）	-17.7
前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか（月に数回以上）	35.1	調査対象学年の児童生徒は、授業中の私話が少なく、落ち着いていると思いますか	-17.0
前年度までに、近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか	28.3	調査対象学年の児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか（週3回以上）	-16.2

令和7年度の学校質問紙調査結果からは、竹田市の小・中学校に共通して、地域と連携した「開かれた学校づくり」が着実に根付いていることが明らかとなった。全国学力・学習状況調査の結果を保護者や地域に対して積極的に公表・説明している点、またコミュニ

ティ・スクールの仕組みを活用して地域の意見を学校運営に反映している点は、小・中学校ともに全国平均を上回っており、地域との協働的な関係づくりが市全体で機能していると評価できる。

また、小学校においては、児童の落ち着いた学習態度や教職員間の連携の良さが特徴的であり、安定した学習環境と協働的な職員文化が強みとして表れている。中学校においても、ICTを活用した日常的な授業や、生徒の主体的な発表・学習計画に対する肯定評価が高く、GIGA スクール構想を受けた授業改善や、思考・表現を重視した学びの質的向上が一定程度進んでいることが読み取れる。

一方で、両校種に共通する課題として、ICT活用の「多様化」と「個別化」の不足が挙げられる。例えば、不登校や特別な支援が必要な児童生徒へのICT支援、教員と児童生徒・家庭間の双方向的なやりとり、個別の特性や進度に応じた学習支援への活用といった、個に寄り添うICTの運用は全国平均を下回っており、端末の活用が「日常使用」ととどまっている状況がうかがえる。また、生活習慣や健康管理に関する指導（例：近視予防）や、小中接続・カリキュラム連携の取組も十分とは言えず、今後の改善が望まれる。

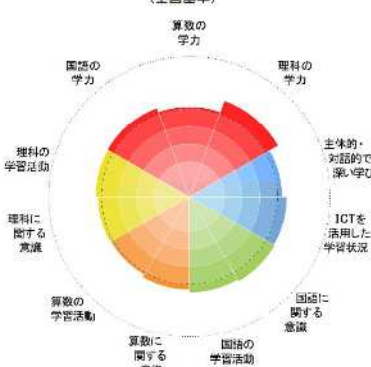
さらに、小学校では「思考力・表現力」の場面での児童の主体性がまだ発展途上であり、中学校では学級の落ち着きや規律面における課題が指摘されている。これらは、学力向上とともに、学級経営や個別支援の体制を改めて見直す必要があることを示唆している。

以上より、竹田市の学校教育は「地域と共にある学校づくり」や「ICTを活かした日常的な学びの充実」において大きな成果を挙げている一方で、次なるステップとして、個別最適な学びの具体化、学習者主体の学びの深化、教科を越えた接続的なカリキュラムづくりが重要な課題となっている。これらの課題に応えるためには、地域・保護者との協働を一層強化しつつ、教職員の学び合いと実践の共有、ICTの戦略的活用を通じて、次世代の教育実践の確立を目指していく必要がある。

（小学校）

〔教科を中心とした学力・学習状況〕

（全国基準）



〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕

（全国基準）



（中学校）

〔教科を中心とした学力・学習状況〕

（全国基準）



〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕

（全国基準）



令和7年度 児童生徒質問紙調査に基づく竹田市全体の考察（小・中学校）

◎全国平均との差（肯定回答率）

【小学校】

強み（全国平均との差が大きい項目）		課題（全国平均との差が小さい）	
国語の勉強は得意ですか	14.1	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	-8.2
5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	13.3	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	-6.7
算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか	12.6	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか（習い事は除く）	-6.7
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	10.3	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	-6.4
国語の授業の内容はよく分かりますか	9.9	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）	-5.9

【中学校】

強み（全国平均との差が大きい項目）		課題（全国平均との差が小さい）	
国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか	18.4	将来の夢や目標を持っていますか	-8.4
国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれますか	16.7	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	-5.8
学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか（オンライン授業の場合も含む）	14.6	読書は好きですか	-5.1
国語の勉強は得意ですか	14.6	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思っていますか	-4.4
数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか	14.5	人が困っているときは、進んで助けていますか	-3.1

令和7年度の児童生徒質問紙調査において、竹田市の小・中学生は、学習に対する肯定的な意識や、教員との信頼関係、ICT機器の授業内活用などの面で、全国平均を上回る傾向が多く見られた。

小学校では、「国語の授業が分かる」「算数で自分の考えを説明する機会がある」「ICT機器をよく使った」といった学習活動の基本的な質の高さが肯定的に評価されており、児童の学習理解と自己肯定感が育まれていることがうかがえる。また、「困ったときに先生に相談できる」など、児童の安心感や信頼関係が構築されている点も大きな特徴である。

中学校では、「先生が成長を具体的に伝えてくれる」「失敗したときにアドバイスをくれる」など、指導におけるフィードバックの質が全国を大きく上回っており、生徒の主体性や学びに向かう力の育成が進んでいることが読み取れる。特に国語と数学において、自分の考えを説明する活動が重視されており、表現力や論理的思考力を高める授業が実践されている点も評価される。

一方で、小中ともに課題として浮かび上がったのは、家庭学習習慣や自己調整力、将来展望の形成といった「学びの持続性」や「自己実現」に関わる側面である。たとえば、理科や科学技術系職業への関心、将来の夢や社会貢献への意識といった設問においては全国を下回る結果が見られ、キャリア教育や探究的な学びとの接続が今後の重要な課題となる。

また、ICT 機器を用いたプレゼンテーションや表現活動の頻度、読書習慣、地域の大人との交流機会など、「学びの広がり」や「社会とのつながり」に関する設問でも全国平均をやや下回っており、総合的な学力育成に向けて、教科横断的・体験的な学びの充実が求められる。

以上より、竹田市の児童生徒は、日常の授業や教員との関係において高い満足度と学習意欲を示している一方で、学びを教室の中に閉じず、将来の自分や地域・社会とつなげていくための支援をより一層充実させていく必要がある。今後は、児童生徒の「なぜ学ぶのか」「何のために学ぶのか」という問いに答えられるような、探究的・協働的・創造的な学びの場を一層広げていくことが求められる。